

市独自策を 子ども医療費助成

小池 悦子 議員

問 お金の心配なく安心して医療機関にかかれることが最大の子育て支援策。県の医療費助成事業拡充による試算は。

答 国保年金課長 市の負担は1800万円の減額になる。

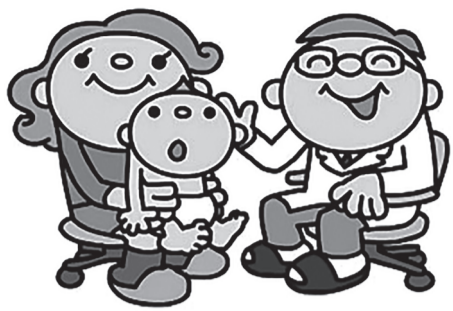
問 小児のマル福の所得制限枠拡大に伴う補助額増と外来・入院の自己負担額をなくした場合の試算は。

答 支出が5470万円増える。

問 その金額は未来を担う子どもたちへの投資。実現可能ではないか。

健康増進部長 県に対し県下統一の医療制度にするよう要望している。ぬくもり支援を拡大する考えはない。

問 全国的に貧困と格差の問題が広がる中で、市に住



んで良かったと思えるような市独自の助成制度施策を再度求める。

答 国の動きを注視していく。市としてできることはやっている。

地域に行き届いた 公立保育所運営を 加増 充子 議員

加増 充子 議員

問 市公共施設等総合管理計画(案)は公共施設の統廃合をしていくもの。高齢者の健康維持の拠点としても、公民館は身近な所に配置されることが必要では。

財政部長 今後、施設の面積は減らしても機能は向上させていく「縮充」が必要。長期的な視点で、施設保有量の最適化、持続可能な財政運営を両立させることが今後の行政運営に必要。

問 吉田、舟山保育所を統合し、民営化を促進していくという第三次保育所整備計画を撤回して、地域に行き届いた公立保育所充実させていくべき。

福祉部長 保育需要の高まりと保護者ニーズの多様化に因應するため、公立と私立役割分担が必要。また、吉田、舟山両保育所とも、老朽化が進んでいることや、立地上の不安があり、早急な建て替えが必要。

問 コスト削減優先の使用料、手数料の引き上げを改

めるべき。

財政部長 今回の見直しは施設の利用者と未利用者の公平感を、適正な見直しの中で図るもので、値上げありきではない。



昭和46年竣工の舟山保育所

心配： 子どものスマホ使用

関川 翔 議員

問 市内小中学校の児童や生徒の間で、携帯電話等による悪質なサイト閲覧や、迷惑メールから、事故、事件やいじめに至った事例はあるか。

指導課長 いじめの調査は学期に1回ごと実施しているが、最近2年間では報告

はない。

問 サイバー犯罪から子どもたちを守るために、学校側が行っている指導は。

指導課長 長期休みの前に必ずネットモラルについての学級指導をしている。また、昨年度外部講師を招いての授業も14校で実施した。

問 学校裏サイトや掲示板といったものが、市内小中学校でも存在し、全国的にはいじめなどに発展するケースもあるが、市の対策は。

指導課長 SNSトラブルや不正請求などに巻き込まれない指導、不適切な書き込みやプライバシーの公開をしないことなど、正しい判断力で携帯電話を使用することを指導している。また、学校側でも誹謗中傷などの情報に対していち早く察知できるよう指導している。



新たな取手の 魅力発信を提案

竹原 大蔵 議員

問 第六次総合計画に「発信」という単語が数多く使われている。発信する場所を提供するため、調整してきた一つに、JRA(日本中央競馬会)中山競馬場(千葉県船橋市)で行われるレース名に「取手」の冠名を付けたレースを実施し、同日、競馬場内で市の物産展や定住化促進など、市の魅力を発信してはどうか。

これを考えたのは、1月に行われた賀詞交歓会時に取手市出身で昨年の有馬記念を制した吉田隼人騎手にゲスト参加いただき、優勝レースの映像を会場内



1月の賀詞交歓会に特別ゲストとして招かれた、取手出身の吉田隼人騎手

で放映すると、そのゴールシーン時には会場内で歓声と拍手が沸き起こったと報道されている。守谷市では、守谷市出身の藤田菜七子騎手の初勝利を祝い、守谷駅に横断幕を掲げるなど、市の魅力として発信している。

費用の軽減など、市が決断すれば実現可能などところまで話を詰めてある。ぜひ実施を。

市長 いい話を頂いたので、費用の面など担当に足を運ばせて動いてみたい。

問 二つ目には、東京銀座にある茨城マルシェの取手市のパンフレットは空の状態。積極的に利用すべき。まちづくり振興部長 商工会と連携を強め、前向きに考えていきたい。